

時間割コード	Q4403900	開講年度	2026				
授業題目	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法【第4欄】					担当教員	小山 茂喜
英文授業名	Theories and methods of education using information and communication technology						
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	L , S , T , A , F
講義室				授業形態	e-Learning	遠隔授業科目	
						備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	情報通信技術を活用した教育に関して、講義や演習を通して、以下の内容を修得する。 1 . 教育現場におけるICT（情報通信技術）活用の歴史的経緯や現状と今後の方向性 2 . ICT活用に関わる授業準備やI授業実践、学習評価の在り方と校務でのICT活用 3 . 情報活用能力の構成要素および育成にかかわる指導法や教育課程上の位置づけ						
(5)授業のキーワード	ICT活用，教育方法						
(6)授業計画	第1回：オリエンテーション 現代社会におけるICTの役割と導入 第2回：学校教育におけるICTの活用 第3回：生徒の情報活用能力の育成 第4回：校務の情報化とデータの活用 第5回：学校教育における生成AIの活用 第6回：メディアを活用した授業づくり 第7回：ICT活用と放送教育 第8回：著作権とセキュリティ・授業アンケート						
(7)成績評価の方法	・ 授業のねらいの到達度を測る毎回のeALPS等LMS上の課題（30％），模擬授業の実施・相互評価（40％），確認テスト（30％）を総合的に評価する。						
(8)成績評価の基準	規準…概ね目標が達成されているレベル …さまざまなメディアの特性を理解している。 … I C Tを活用した教材開発や授業設計ができる。 …メディアリテラシーの基本を習得している。 基準 『かなり上にある』…場面や内容に応じて様々な観点から I C Tを活用した授業設計を行うことができる。学習活動や内容に応じて、デジタル教材を自ら作成したり、 I C T機器を活用することができる。 『やや上にある』…深い学びの展開に向けて、 I C T活用した資料を作成できる、もしくは授業設計ができる。						
(9)事前事後学習の内容	I C Tを活用した教材を作成する。 この授業は，15時間以上の時間外学習が必要となります。						
(10)履修上の注意	教員免許状取得希望者は、選択必修科目となります。 e-Learning学習です。						
(11)質問、相談への対応	随時対応。 メールでも可。 fujiiy@shinshu-u.ac.jp shigeki@shinshu-u.ac.jp						
(12)授業への出席	すべてのコンテンツを視聴し、課題を提出することが前提である。						
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	elearningなので、計画的に受講すること。						
【教科書】	「ICT活用の理論と実践：DX時代の教師をめざして」稲垣忠・佐藤和紀 他，北大路書房，2021						
【参考書】	中学校学習指導要領(平成29年度告示)，中学校学習指導要(平成29年度告示)領解説総則編，中学校学習指導要領(平成29年度告示)解説（国語編、社会編、数学編、理科編、外国語編），高等学校学習指導要領(平成30年度告示)，高等学校学習指導要領(平成30年度告示)解説総則編，高等学校学習指導要領(平成29年度告示)解説（国語編、地理歴史編、公民編、数学編 理数編、理科編 理数編・外国語編 英語編）						